



老いも若きも全ての世代が躍動する稲沢へ

稲沢市長 加藤錠司郎

あけましておめでとうございます。

市民の皆さまには、良き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

このたび、皆さまからのご支持を賜り、引き続き稲沢市長として市政運営の舵取りを担わせていただくことになりました。3期目となりますが初心を忘れず、皆さまと同じ目線に立ち、皆さまの声にしっかりと耳を傾けながら、本市の更なる発展のために全力を注いでまいります。

これまで「子育て・教育は稲沢で！」をスローガンに掲げ、子育て世代や子どもたちへの支援に努めてまいりました。今後、更なる支援の充実を図るため「まるごと いなざわ 子育て応援パッケージ」として、不妊治療への補助拡充や不育症に悩む方への支援、病児・病後児保育施設の建設、22歳までの大学生などの入院医療費の無償化、小・中学校給食費の無償化など、結婚・妊娠・出産・子育て・教育にわたり切れ目のない支援を行ってまいります。

また、すべての団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる令和7年を迎え、「高齢者と共に生きる地域環境づくり」の推進が必要です。「まるごと いなざわ 高齢者応援パッケージ」として、高齢期を迎えてもいきいきと元気に過ごし、可能な限り住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、地域包括ケアシステムの深化をはじめフレイル予防や認知症支援体制の充実に取り組んでまいります。

さらに、人口減少、少子高齢化社会において持続的なまちづくりを支えるためには、名古屋駅から鉄道アクセス10分圏という本市の特性を活かした都市基盤の充実が必要です。そのためにも名鉄国府宮駅周辺の再整備、新たな住居系市街地の形成の2つの施策は、本市の将来を展望する上で極めて重要な役割を果たすものと考えておりますので、関係者の皆さまと真摯に向き合いながら一歩ずつ着実に取り組んでまいります。

結びにあたり、今年1年が皆さまにとって幸多き、素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

市民と向き合う市議会として

稲沢市議会議長 吉川隆之



あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。日ごろから本市議会の活動に対してご理解と温かいご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年1月1日、石川県能登地方にて発災した最大震度7に及ぶ能登半島地震は、尊い生命や財産を奪い、甚大なる被害をもたらしました。また、8月には宮崎県にて日向灘を震源とする震度6弱の地震が発生し、気象庁は南海トラフ地震臨時情報を初めて発令しました。この他にも多くの自然災害に見舞われた昨年は、日本国内の防災意識に大きな影響をもたらし、稲沢市議会といたしましても、災害に強いまちづくりの実現のために、より一層尽力してまいり所存でございます。改めまして、犠牲となられました方々へお悔やみ申し上げるとともに、被災されました皆さまの1日も早い生活再建と被災地の復興を心よりお祈りいたします。

また、昨年はパリオリンピック・パラリンピックが開催され、世界中を感動と歓喜の渦に巻き込みました。そのオリンピックの聖火採火式が昨年4月16日に、本市の姉妹都市であるギリシャのオリンピア市で行われました。市内の中学生9人を派遣し、稲沢市の代表、ひいては日本の代表として聖火をオリンピアからパリへつなぎました。また、稲沢市内に拠点を置くチームである、ソニー HC BRAVIA Ladiesから女子ホッケー日本代表に5名選出され、豊田合成ブルーファルコンから男子ハンドボール日本代表に2名選出されるなど、稲沢市民として誇りを感じるとともに身が引き締まる思いでございました。

稲沢市議会といたしましては、二代表制の一翼を担う機関として、しっかり議論を重ね、市政の監視役としての責務を全うしていくとともに、議会報告会や意見交換会などを通じて、市民の皆さまの貴重なご意見に真摯に向き合ってまいります。

結びにあたり、市民の皆さまにおかれましては、この2025年が明るく豊かな年になりますよう心から祈念しまして、新年のごあいさつといたします。